

平成 23 年 12 月 10 日

東日本大震災支援 ボランティア活動だより 第 4 号

東日本大震災から 9 カ月が経過いたしました。今、改めて大切なことは、皆が「あの日」を忘れず、ともに支え合って、新しく希望の持てる暮らしをつくりだしていくことだと思います。

私たちは、関西にいる産業カウンセラーとして、被災者の方々の暮らし・気持ちに関心を傾け続け、やり場のない悲しみや憤りを受け止められる仲間であり続けたい…「あの日」は、ずっとみんなの問題なのだと実感し、行動し続けたいと思うのです。

あの日以来、「関西支部でできることをしよう」と立ち上げたボランティア活動は、「訪問カウンセリング」の継続や、「クライシスカウンセリング基礎・専門研修」により、ゆっくりにではありますが、確かな歩みを見せています。

実施報告では、関西で暮らす被災者の方は増えているものの、個人情報保護条例などにより訪問活動が展開しにくいもどかしさも伝えられています。「親切の押しつけ・支援の押し売り」でなく、「支援を求めている人とともに居る、伴走と協働の訪問ボランティア」を、意識して、息長く「訪問カウンセリング」を継続できたらと思っています。

何が起こるか分からない「無常の日々」。だからこそ、一人ひとりが当事者意識を持ち続け、自分ができる支援で、困難を乗り越える元気をつくりだしていきたいものです。

今回は、11 月～12 月の「活動報告」、「今後の期待とお願い」についてまとめてみました。

1. 活動報告（11 月～12 月）

(1) 訪問カウンセリング

ボランティア活動開始以来の各府県窓口への広報活動、チラシ・カードの配布活動の成果があり、関西圏におられる被災者の方たちへの訪問カウンセリングが継続しています。

大阪府…2 件（チラシを見て 1、自殺予防電話相談 1。1 件は中断）

京都府…1 件 「被災者のための文庫活動」の場へ、月 1 回木曜継続中

奈良県…1 件 行政窓口からの紹介で継続中

滋賀県、兵庫県、和歌山県についても広報活動を継続中

実施報告によると、東北との生活環境や習慣の違い、人間関係などを新しく築いていくための気苦労やストレスなど、さまざまな問題が出始めています。現在の実施件数は少ないものの、私たちの活動はこれからますます必要になっていくと捉えられます。また、原発の心配などから関西圏に移住する覚悟を持ち始めた方もおられ、さまざまなニーズに対応できる、息の長いボランティア活動を目指そうと話し合っています。これからもこの活動に関心を持って、ともに活動していく会員を求めています。

⇒意思のある会員は、支部事務局に申し出てください。

(2) 専門研修「クライシスカウンセリング基礎 2」実施

9月までの基礎研修3回と専門研修「クライシスカウンセリングの基礎 1」に加えて、12月6日には「クライシスカウンセリング基礎 2 事例検討とロールプレイ」を実施。34名が参加しました。講師は遠藤瑞江さん。クライシスカウンセリングの基礎理論のほか、阪神・淡路大震災やJR西日本脱線事故での被災者支援体験など、事例検討・ロールプレイを交えて学んだ有意義な2時間でした。

※以下、総務班・鶴飼柔美さんの感想

阪神大震災やJR事故の支援、その他豊富な経験に裏付けられた遠藤さんのお話をお聞きしていると、はたして自分にできるのだろうかと不安にもなりましたが、遠藤さんが被災地にお孫さんを連れていかれて現地の子供たちとの自然なふれあいから始まった体験談は、「自分の持っているもので何かお力になれば」という思いを改めて確認することになりました。後半のロールプレイは具体的な事例をもとにした内容で、観察者でいながらも無力感を感じずにはられませんでした。その上で、自分はここでどんなふうに住らるだろうと想像した、とても有意義な研修でした。ありがとうございました。

2. 今後の期待とお願い

これまでの研修に参加した会員から、「危機介入についての自己研鑽になり、とても満足している」との感想が聞かれます。また、登録の意志表示や活動参加によって、「改めて産業カウンセラーのあり方や役割を考える、いい機会になった。」との感想も届いています。まさにこの活動が主体的で意欲的なものとして成り立ち、さらに志を高め、各人を成長させる機会になり得ていると実感でき、喜ばしく思います。

ボランティア活動が、そのまま産業カウンセラーとしての学びと実践になっている…。これからもみなさんとともに、息の長い活動になればと思います。そして、一人でも多くの会員の参加を期待しています。

みなさんからのご意見・感想・質問・提案などをお待ちしています。支部事務局「東日本大震災ボランティア係」まで、メールでどしどしお寄せ下さい。ボランティア活動は、そこから始まります。info@jica-kansai.jp

(文責：総務班)